

令和4年度第2回総合教育会議議事録

日 時	令和4年11月18日（金） 午後3時00分～4時29分
場 所	秦野市役所教育庁舎3階会議室
出席委員	秦野市長 高橋 昌和 教育長 佐藤 直樹 教育長職務代理者 飯田 文宏 委員 片山 恵一 委員 牛田 洋史 委員 小泉 裕子
欠席委員	なし
委員以外 の出席者	教育部長 原田 真智子 生涯学習課長 水島 一葉 文化スポーツ部長 宇佐美 高明 図書館長 山本 英範 教育総務課長 守屋 紀子 広畑小学校長 柏木 敦子 学校教育課長 坂口 憲 南中学校長 武 政志 学校教育課担当課長 上條 秀香 教育総務課課長代理 中村 武史 教職員課長 古木 学 教育指導課長兼 教育研究所長 丸野 研二
傍聴者	0名

教育部長

定刻となりましたので、ただ今から令和4年度第2回総合教育会議を開催いたします。

それでは、お手元にお配りしてございます会議次第に沿って進めてまいります。まず、開会に当たりまして、高橋市長より御挨拶をお願いいたします。

高橋市長

本日は、お忙しい中、総合教育会議に御出席いただき、ありがとうございます。

新型コロナウイルスの第8波とインフルエンザの同時流行が危ぶまれる中ではございますが、11月3日の文化の日には、市民の日を、3年ぶりに開催することができました。また、12日から15日までの間には、第34回を迎える「ねんりんピックかながわ2022」が開催され、本市を会場として、野球や弓道などの大会が開催されるほか、さまざまな催し物が実施され、健康長寿社

会に向けた大変意義深い大会となりました。with コロナが謳われる中ですが、本市としましても感染対策を施しながら、各種イベント等の開催に移行している状況です。

教育分野では、日ごろの学校活動等におきまして、各学校の先生方をはじめ、教育委員の皆様方には、「教育活動をとめない」という教育長の今年度の方針の下、コロナウイルスの感染状況等に柔軟に対応していただき、安全・安心な学校運営に御尽力をいただいていることに、この場をお借りして、改めて感謝申し上げます。

さて、本日の会議では、全国学力・学習状況調査の結果がでましたので、その結果の報告及び課題解決に向けた今後の取組などについて御意見などをいただこうと考えております。教育水準の改善・向上に向けて、GIGAスクール構想により整備されたICTの活用は、いまや必須アイテムとなっており、教職員の負担軽減への取組と合わせ、どういった活用をしていくかが、今後の鍵となってくるものと考えております。

また、新年度に向けては、教育課題が山積する中、教育委員の皆様のお意見を伺い、今後の方向性についての共通理解を図るため、新年度の重要施策を議題としております。

本日は、小中学校から校長先生にも御出席いただいておりますので、是非、忌憚のない御意見をいただければと考えております。どうぞ、よろしく願いいたします。

教育部長

ありがとうございました。

市長の挨拶にもございましたが、本日は、小中学校のそれぞれの教育研究会の会長である広畑小学校の柏木校長、南中学校の武校長に御出席いただいておりますので、一言ずつ、御挨拶をお願いします。

柏木校長

皆さんこんにちは。広畑小学校校長の柏木と申します。本日は、教育研究会の会長としての立場でお話しさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

武校長

皆さんこんにちは。南中学校長の武と申します。柏木校長と同

様、中学校の教育研究会会長として、お話しさせていただけたら
と思っております。本日は、よろしく願いいたします。

教育部長

ここから議題に入る訳でございますが、進行につきましては、
秦野市総合教育会議運営要綱第2条第2項の規定により市長が行
うこととされておりますので、高橋市長よろしく願いいたしま
す。

高橋市長

【議題1 教育水準の改善・向上について】

本日の議題は、まず「教育水準の改善・向上について」です。
国から全国学力・学習状況調査の結果が8月に送付され、これ
まで担当課をはじめ、教育委員会会議でも結果の分析について協
議されたと聞いています。全国学力・学習状況調査の結果及び現
状の課題について、まずは担当課からの説明をお願いします。

教育指導課長

それでは私から、全国学力・学習状況調査の結果について、報
告させていただきます。

結果につきましては、文部科学省からの送付があった結果を踏
まえ、本市の状況について、教育指導課で把握、分析をしまして、
お手元の資料1にまとめてあります。資料1を御覧ください。令
和4年度の結果は、小中学校ともに国語で改善傾向がみられ、算
数・数学については、全国と同様に課題がみられるという結果と
なっております。各教科の学習意欲については、昨年度に引き続
き、中学校では国語が好きとの回答が全国平均を、また、理科が
好きにつきましても、小中学校ともに、全国・県の平均を上回る
結果となっております。また、教育振興基本計画の指標としており
ます、質問紙調査における非認知能力については、「難しいこと
でも失敗を恐れずに挑戦している」、「やると決めたことはやり
遂げるようにしている」と肯定的に回答した児童生徒が、前回調
査と比較して大きく改善しています。こちらにつきましては、学
びの基盤プロジェクトによる授業改善や教育活動全体での工夫の
成果とみております。

次に本市の特徴の一つであるICT機器の活用に関すること
ですが、本市は授業中の調べる場面で、ICT機器を週3回以上使
っているという小中学校の生徒の割合が、全国平均と比べると大
きく上回っており、ICTマイスターをはじめとして、教育委員
会と学校が協働して、ICT機器の活用と推進を積極的に図って
きた成果であると分析しています。

本市独自の分析の視点につきましては、平成31年度の小学校6年生の結果と、令和4年度の中学校3年生の結果を比較し、同じ児童・生徒の集団の経年比較をいたしました。文科省の地方教育アドバイザーの大江氏から、伸びを分析することの大切さについて御助言をいただき、今年度より行った分析の視点になります。

算数・数学については、学習内容の高度化、抽象化もあり正答率が下がっておりますが、国語については、改善傾向で全国平均との差が縮まっているということから、小学6年から中学2年までの間に子どもの伸びを促す取組が進められたと考えています。

最後に教育水準の改善・向上に向けた市全体の方向性に示しました取組を踏まえ、各校の結果を見ますと、学びの基盤プロジェクト事業や寺子屋事業などに取り組んでいただいた学校については、一定の成果が確認できるほか、本市の課題を焦点化した課題解決教材を用いたアプローチプログラムを実施した学校からは、無回答率に改善がみられるという報告も受けております。また、学びのステップアップ講座や、学力向上研究推進委託を通して、学校長のマネジメントの支援体制を強化することで、学校の教育水準の改善・向上に向けた意識の高まりが見られ、昨年度を大きく上回る小中合わせて15校から、指導主事による学力調査に関する研修会の希望が寄せられています。これまでの取組について一定の成果が得られていることから、次年度以降も継続、または重点化を図っていく中で、児童生徒の記述力や問題解決能力の育成を目指した授業改善の取組や、非認知能力の育成に向けた取組を進めてまいります。

高橋市長

ありがとうございました。

全国平均に到達しなかったことは大変残念ですが、学力というものは一朝一夕で改善するものではないとも思っています。

事務局には腰を落ち着けて長期的に取り組んでもらいたいところですが、そのためにも参加された皆様から是非、御意見を伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

片山委員

結果は残念だったと思うが、市長もお話しされたように、学力というのは長期的なアプローチが重要となると思います。今回の結果から、具体的にはどのような点が課題と分析していますか。

教育指導課長

各教科共に記述式の無回答率が課題となっていて、特に資料から必要な情報を読み取り、自分の考えを記述したり、プログラミ

ングを始めとして、様々な場面で活用するような新しい学力観に基づいた設問に課題があると分析しています。

特に、中学校では根拠を明確にして考えを記述したり、筋道を立てて説明したりする記述式の設問の無回答率が高い傾向にあります。

片山委員

プログラミングなどの新しい要素が入ってきているので、時代の変化に合わせて、まずは授業が変わっていく必要がある。全国学力・学習状況調査の結果を受けて、日々の授業を見直すことが重要だと考えています。

また、個人的には、学力向上には国語の力が基礎になると感じています。小中学校ともに国語は改善傾向にあるが、読解力や文章力を身につけることで、算数や理科の改善にもつながると思いますので、引き続き、取組を継続していただきますよう、お願いします。

高橋市長

片山委員から具体的な意見をいただきました。私は現地現場主義が大事であると思っております。4月には新任の学校長7名とも懇談させていただきました。

本日は、小学校、中学校のそれぞれからどのように受け止めているのか、ぜひ伺わせて下さい。

柏木校長

校長会でも学力向上については、常に意識しています。

本校でも9月15日に、校内研究を兼ねて職員全員で校内全国学力・学習状況調査状況に係るフィードバック研修会を開催させていただきました。また、11月29日に、学びの基盤プロジェクトにつきましても、フィードバック研修会の開催をお願いしています。

昨年度はAI搭載の学習ドリルの導入など、大変感謝をしております。本校でも有効に活用させていただいております。また、若い先生方も子どもたちの個々のスピードに合わせて活用できるので非常に助かっているとの声をもらっています。次年度は保護者の教材費の負担軽減にもつなげたいと考えていますので、是非継続してほしいと思っております。

今後の小学校の教育研究会としても、研修の機会を作ったり、教育委員会と協働して、若い先生方の授業力向上を図っていきたいと考えております。

市長にお会いできる機会もなかなか無いので、まず校長会を代表してお礼を何点か、させていただきたいと思います。

給食の実施に際しては公会計化やエレベーターの設置等学校に多くの支援をいただいていること大変感謝をしております。また、先日、南中学校では、職業講演会として、市の栄養士の方に来ていただき、講演をいただいたり、保護者向けの試食会を考えていただき、給食を身近に感じていただく取組をしていただきました。また、体育館の開放業務も学校から切り離す方向と伺っておりまして、教頭の業務軽減は、学力向上にも寄与すると感じております。

御質問いただきました学力調査の結果については、私自身、数学の教員をしておりましたので、そうした観点からお話しさせていただけたらと思います。「数学の授業内容はよくわかりますか」との質問に対し、7割以上の子どもが肯定的な回答をしています。また、「数学の勉強は大切か」との質問も7割以上の肯定的な回答です。さらに「数学の問題がわからないときにあきらめずにいろいろな方法を考えますか」との質問も7割以上の肯定的な回答でした。しかし、「数学が好きですか」との質問に対しては5割くらいの数字になっています。また、「数学の授業で学習した内容を普段の生活で活用できないか考えますか」との質問には、肯定的な回答は、4割くらいとなっています。

この数字を見て感じることは、教科としては学習している、また教職員もICTを活用しながらわかりやすい授業の工夫をいただいているが、好きでないところを考えると、子どもたちにとって身近な題材がどれだけ与えられているか、また、数学が生活において実感が伴うものとなっているか、数学の有用感、数学を学ぶ意義、というところまで至っていないと感じています。中学校の教育研究会としても、身近な題材や、生活の中で数学の実感が伴うものが活用されている題材について、情報交換などを行い、数学が好きだ、という生徒を増やすことによって、正答率を上げる取組としていきたい。

2点目として、数学はつまずきやすい教科とも言えるので、つまずいたところから今一度学習できる学習支援ソフトは、大変ありがたいと感じています。この学習支援ソフトでは、類似の問題に取り組む設定もできるほか、また、理解している生徒に対しては、更に発展的な問題にも挑戦できるので、学習支援ソフトについては、引き続き活用できるよう御理解をいただけたらと思います。

高橋市長

ありがとうございました。

まずは、教科を好きになることは非常に大切というのは全く同感です。

私自身も確か中学2年生の2学期だと思いますが、因数分解でつまずいた記憶がありますが、つまずきをうまく克服できることは大切な要素であると感じます。小学校でもフィードバック研修会を開催しているということで、学力向上への意識は高まっているようで安心しました。現場の実情についても改めて報告がありました。委員の皆様から、御意見等いかがでしょうか。

牛田委員

子どもの学習意欲は教育振興基本計画の指標にもなっているので、教育委員会会議でも述べさせていただいたが、そこを伸ばす教員のスキルをしっかりと若い先生方に引き継いでいくことが大切ではないかと思えます。

柏木校長の報告にもありましたが、若い先生に寄り添った形で校内研修を行っているということで安心しましたが、現状はどのようなのでしょうか、現在の教職員の状況をお聞かせいただけますか。

教職員課長

本市の教職員の平均年齢は、小中学校ともに41歳ということで、いずれも40代の教員、いわゆる中間層の割合が少なく、年齢構成の2極化が見られます。数年前より教職員の大量退職、大量採用の時代が続いており、教職員のスキルアップやミドルリーダーの育成に伴う働き改革は、課題となっております。

教育研究所長

授業改善については、児童生徒の学力の伸びや非認知能力に着目し、昨年度から「学びの基盤プロジェクト」に取り組んでいます。

先月も地方教育アドバイザーの大江氏を講師としてお迎えし、新たな学びプロジェクト研究会にも多くの若い先生方にも参加いただき、スキルの伝承を図ることができたと感じています。

また、授業改善と教職員の意識改革の両面から、ICTの有効活用や、校内におけるミドルリーダーとしての意識向上を図る機会として、教職員のステージに合った内容の研修を本市独自の手法で取り組んでいます。

また、スマートスクール連絡協議会を立ち上げ、テストの作成採点集計などの業務を一括してデジタル化するCBTの手法をにつましても学校とともに研究しています。

牛田委員

個人の伸びと非認知能力に着目した「学びの基盤プロジェクト」は非常によい視点だと思います。市内の一部の学校で取り組んでいると聞いているが、今後の見通しはどうか。

教育指導課長

今年度は8校で実施しており、現在、指導主事が各校を訪問して結果分析に協働して取り組んでいるところです。

次年度は、調査を実施するモデル校を15校に増やすとともに、対象学年を小学校4年から中学校3年までとし、学びの連続性を意識した、個の伸びを追って授業改善につなげる取組を強化してまいります。

飯田委員

他県で行われている過剰な対策が通常の教育活動に影響を与えているような報道があつて、保護者としては、心配なところがあります。

本市では、授業改善に活かしているということなので安心しました。丁寧に結果分析を進めて、子どもの学力を伸ばしたよい事例などがあれば、是非、市内全体で共有し、プロジェクトを生かしていくとよいと考えます。

高橋市長

先ほど、C B T化の話がありましたが、教育のデジタル化については、デジタル田園都市国家構想における「デジ田（でん）甲子園」にもエントリーされたが、残念ながら、入賞はしなかったようですが、どんな評価を受けたのでしょうか。

教育研究所長

本市のI C Tマイスターの取組が、今年度のデジ田甲子園の実装部門の神奈川県代表としてエントリーしまして、全国43自治体中、順位14位という結果になりました。しかし、上位を見ますと通信環境の整備による商品のスマートオーダーシステムの開発、また、電子地域通貨を活用した行政サービスの向上及び地元企業の支援など、自治体を挙げての取組が多い中、本市I C Tマイスターの先生方と教育委員会が協働したマンパワーによる取組が十分に評価されたと考えております。また、I C Tマイスターの先生方からは、日ごろの地道な取組にスポットが当たり、やる気につながったとの声も教育委員会にも届いております。

I C Tマイスターの具体的な取組については、柏木校長から御紹介いただいてもよろしいでしょうか。

柏木校長

本校には、2名のICTマスターが活躍しています。定期的にマスターのクラスルームを活用し、市内54名のマスターとミーティングを行っています。そのミーティングでは、活用方法について、共有しており、各校と情報交換をする中で、子どもたちが有効にクロームブックを活用できるようリーダーとして効果的に機能しております。手前味噌ですが、本校の女性マスターは非常に優秀で、各校にいろいろな活用方法を提供し、授業等に取り入れております。

高橋市長

引き続き、ICT活用については、力を入れていくべきと考えていますが、皆さんから御意見はありますか。

小泉委員

前回の総合教育会議でもデジタル教科書など、ICTについては触れましたが、先の教育委員会会議でも、東中学校でCBT化に取り組んだところ、テストの採点から集計までが、あっという間に終わったという話も聞いています。

教員の働き方改革の面でもCBTの効果は、検討して推進してほしいと思います。

牛田委員

学力向上に向けて、秦野でも様々な授業改善や新たな試みを図る中で、次々と新しいことが入ってきて、先生方は本当に大変だと思う。

CBT化により、またICTへの対応という点で負担を感じる先生もいるかもしれないが、物理的に時間がかかるという作業については、前向きにICT化により削減し、慣れることで先生方の負担軽減につながるとよいと思います。期待しています。

佐藤教育長

冒頭、広畑小学校の柏木校長から、学力向上の意識のお話もいただきましたが、8月の園長校長会では、学力向上についてマネジメント研修会を開催し、しっかりとPDCAサイクルが行われるようフォローアップシートを学校長に作成いただいております。小泉委員、牛田委員からも御心配の声をいただきましたが、ミスマッチが起きないようにフォローアップシートで共通理解を図っています。武校長にも学校評価について、記載いただいております。そのあたり、武校長からいかがでしょうか。

武校長

中学校では、1年間の教育活動について、学校評価を実施しています。学校教育目標は、教育振興基本計画の重点施策6項目に

沿って、考えていきたいと思っています。その集計について、以前は、紙を使って手作業で学校評価の集計を行っていましたが、グーグルフォームを使って集計を行うと一瞬で完了することができますので、学校評価のデジタル化について、検討していきたいと考えています。

片山委員

先ほど授業が変わっていかねばならないと申し上げましたが、あいさつなどの普段の生活状況を改善していくことが、学力向上にもつながると考えています。調査結果と併せて、子どもたちのアンケートなども活用して、個々に応じた対応を進めて、学力向上を確実なものとしてほしいと思いますのでよろしくお願いいたします。

小泉委員

今、片山委員から生活状況の改善という話がありましたが、学力の向上には、テストの得点だけでなく、実生活での経験や体験も大きく影響すると思っております。

時には失敗や痛い経験をすることも必要で、そのような経験の中で、次はどうしたらよいかを考えることが子どもの生きる力になるのではないかと思います。

そういう意味では、幼児教育はとても大事になると思うので、園小中一貫教育として、是非、連携してもらいたいと思います。

佐藤教育長

非認知能力の育成という部分でも幼児教育は大事だと感じています。

特に秦野は、大正時代から続く幼稚園教育の歴史があります。

一方で、秦野の小学校では、約6割の子どもが私立の幼稚園や保育園、こども園から進学してくる状況です。

園小接続カリキュラムの策定を現在進めておりますが、本日の午前中にも大学に行き、先生方に御助言をお願いしてまいりました。

私立の園ともこれまで以上に連携しながら園小中一貫教育を進めていきたいと考えております。

高橋市長

園小中一貫教育を進める中で、約6割が私立からの進学ということで、公立園と私立園との連携強化については、数年前から取り組みを始めているが、具体的にどのように進めているのか。

教育指導課長

現在は、園小接続カリキュラムの策定を進めているが、その研

究部会のメンバーに私立園の先生も入っていただき、公私、園種の枠を超え、協働して検討を進めております。

また、既存の組織である幼保連絡協議会の研修視察として、小学校の授業参観と、授業後には、「園から小への接続期における教育・保育を考える」というテーマを基に、小学校教諭との懇談会などを企画し、希望制で私立園の先生方にも御参加いただいています。

このような一つひとつの取組を重ねながら、秦野の教育に対する共通認識を深めることで、連携強化を図っているところです。

高橋市長

取組が進められているようで安心しました。

すぐには難しいと思いますが、時間をかけて、互いの理解の促進を図っていただきたいと思います。

他にありますか。

牛田委員

個々に応じた対応というところでは、本市では、放課後の学習支援、いわゆる寺子屋事業にも取り組んでいると思うが、現状はどのようなか、お聞かせいただけたらと思います。

教育指導課長

今年度は、昨年度から引き続いての北地区に加えて、西地区でも寺子屋事業を進めています。

また、中学校向けの寺子屋事業も新たに進めており、北中学校と渋沢中学校をモデル校として、取り組んでいます。

その他、民間や地域と連携して放課後の学習支援を行う取組も増えてきています。

高橋市長

私も以前から寺子屋方式による学習支援を展開していきたいと考えていたが、着実に進んでいるようで安心しています。引き続き取組が広がるよう、お願いしたいが、今後の展望はいかがでしょうか。

教育部長

市民力を生かした寺子屋の動きも出てきたことで、放課後の学習支援事業については、今後、児童・生徒の居場所づくりにもつながる様々な形が考えられます。また来年度は、市内すべての中学校区に寺子屋の設置が完了する予定です。関連部局や地域ボランティア等と連携して進め、教育水準の改善・向上につなげていきたいと考えております。

高橋市長

全国学力・学習状況調査の結果を受け、教育水準の改善・向上に向けて、さまざまな手法を用いて取り組んでいることが分かりました。ICTの活用や寺子屋での取組が、来年度の調査時に実を結ぶ結果となるよう進めていただきたいと思います。

それでは、この議題はここまでとしたいと思いますが、いかがでしょうか。

各委員

—異議なし—

高橋市長

それでは、議題1については、以上といたします。

事務局

それでは、柏木校長先生、武校長先生は、ここで退出されます。

—【校長退出】—

高橋市長

【議題2 新年度における重要施策について】

それでは、次の議題に移りたいと思います。

2つ目の新年度における教育部の重要施策について、を議題といたします。

各部として、新年度の予算要求もまとまったところだと思しますので、重要施策について、執行部からの説明をお願いします。

教育部長

それでは、教育部における新年度の重要施策について、御説明いたします。

教育部では、4つのキーワードをもとに、新年度の取組を進めてまいります。

1点目は、安全・安心で快適な教育環境づくりの推進です。ハード面の取組となりますが、施設の老朽化に伴い、雨漏りなどの不具合が生じており、各校からは多数の修繕要望が寄せられている状況を踏まえ、危険個所を中心に、適切な修繕を行い、安全・安心で快適な学校環境づくりに努めます。

2点目に、教育水準の改善・向上です。非認知能力に着目した「学びの基盤プロジェクト」を軸に、教育委員会と学校の協働による授業改善に取り組みます。また、教育分野におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進することで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図ります。

幼児教育の充実では、今年度に引き続き、ほりかわ幼稚園のこども園化を進めていきます。なお、年内には、運営法人の募集を開始し、来年度の5月頃には運営法人が決まる予定です。

3点目は、学校における働き方改革の推進です。引き続き、学校業務改善推進方針の取組を着実に進め、子どもと向き合う時間の確保に努めます。さらに、部活動スタートアップ事業として、中学校の休日の部活動の地域移行を進め、教職員の働き方改革につなげてまいります。

4点目ですが、次世代を見据えた教育基盤の整備です。学校ネットワークシステムの次期導入に当たり、効率的な校務処理と教育活動の質の改善、教職員の負担軽減を図るよう、校務の情報化を推進してまいります。

文化スポーツ部長

私からは、文化スポーツ部の教育費にかかる新年度の重要施策について、御説明します。

まず、文化財の普及啓発については、令和5年9月に震生湖が誕生100周年を迎えるので、地域住民や中井町、関係各課とと

もに、記念式典の開催や、専門家（文化庁の柴田技官）による講演会のほか、記念冊子の作成などを予定しています。

また、市民が公民館を安全安心に快適な施設として利用できるよう、ゼロカーボンシティに向け、環境に配慮した取組として、館内の照明器具のLED導入を進めるとともに、インターネット（Wi-Fi）の環境の充実についても考えております。

次に、図書館では、郷土が生んだ歌人である前田夕暮の生誕140周年に係る事業として、このあとの報告事項2で図書館長が説明をしますが、本市にゆかりのある貴重な人物の功績を広く周知するとともに、郷土の歴史文化に触れるきっかけとなるような事業、記念講演やイベントなどを実施していきたいと考えています。

また、利用者が安全・安心かつ快適に利用でき、図書館設備の長寿命化を図る一環として、新年度は、建築後37年が経過したエレベーターについて、老朽化した機器類の更新と、耐震対策など更新工事を実施したいと考えています。

高橋市長

各部長からの説明がありましたが、皆さんの方から、御意見や御質問はありますか。

牛田委員

先ほどの議題とも通じるが、教育水準の改善・向上と言っても授業改善に留まらず、ICT化や教職員の働き方改革など、多方面の取組をしていかなければならないと考えます。

これまでは、新たな取組を取り入れてきたが、来年度は、これまでの取組を拡充していくという方向でよいか。

教育指導課長

基本的には、既存事業の充実を図っていくものと考えていますが、新たな取組として、英語教育国際理解教育の分野において、上智大学短期大学部と連携した新たな小学校外国語活動の支援委託事業を計画しています。小学生が英語活用の場面に触れ、より実践的な学習となるよう、大学と協力して取り組んでまいりたいと考えております。

牛田委員

上智大学短期大学部との取組は、以前からあったように記憶しているが、さらに取組を増やすということによいですか。

教育指導課長

これまで小学校の教室に学生を招いて実施していた「イングリッシュフレンド」の取組を刷新し、上智大学短期大学部秦野キャ

ンパスを活用しまして、ロールプレイなどを取り入れた、より体験的実践的なプログラムを実施する方向で、現在、大学側と調整しています。

飯田委員

テレビなどを見ている、楽しみながらやるのが大切であると感じています。ロールプレイを取り入れるなど、より実践的で楽しみながら出来るよいプログラムのように感じるが、何年生を対象に実施する予定ですか。

教育指導課長

6年生を対象に実施することが適切であると考えています。

飯田委員

これまでも大学生との取組は、子どもたちとの年齢が近いことから親しみやすく、効果が高いという話を聞いていたので、今回の取組も、是非、子どもたちが楽しみながら、英語に興味を持ち、好きになるようなものとなるよう期待しております。

片山委員

今の件に関し、面白そうなプログラムだが、大学のキャンパスで行うとなると、移動に係る先生方の負担も増えると思うが、そのような中でスクールサポートスタッフは、今年度と同様に配置できる見込みでしょうか。

教職員課長

現状維持を見込んでおります。

また、来年度は、県費での配置が進むため、市費での予算は大幅に削減できる見込みとなっております。

佐藤教育長

教職員課長から説明がありましたが、他市に先駆けて、県下で最初に、市費で配置していただきまして、県全体の施策を動かしたということに、本当に、感謝しております。

厳しい財政状況であることは理解しておりますが、次年度は市の独自策としては、学校図書館の地域開放や義務教育学校の研究などに着手していきたいと考えております。

高橋市長

県費の配置が進むことは望ましいわけですが、その他にも、本来は国や県が配置すべきところに、市費で職員を配置しているものもあります。

何もかも市費でということはできないですが、しかるべき要望はしっかりと挙げていただきたいと思います。

他にいかがでしょうか。

小泉委員

以前の教育委員会会議の中で、学校の栄養士が引き上げられるという説明がありましたが、これも、県が配置すべきところ、市が配置するという話なのでしょうか。

学校教育課担当課長

県の配置基準では、児童数が550人以上の学校には1名、550人未満の学校には4校に1名の栄養士を配置することとなっています。

来年度は、現在550人以上の東小学校と南が丘小学校が550人未満となる見込みであり、先ほどの基準により、この2校の県費負担栄養士が引き上げとなるため、市費で会計年度任用職員を配置する必要があります。

具体的には、現在、学校栄養士は、各小学校に1名と学校給食センターに2名の合計15名を配置していますが、このうち4名が市費、11名が県費であり、11名の県費職員のうち令和5年度に2名が引き上げとなる状況です。

現行制度の中では、委員御質問の県費で配置すべきところ市費で配置しているという状況ではありませんが、児童生徒数が減少する中、550人で1名という配置基準を引き下げてもらおうように国県に要望はしていますが、実現していない状況です。

小泉委員

食育の重要性が高まる中、必要な人員ということで、市費でということは大変だと思うが、各校にしっかりと配置していただくようお願いいたします。

高橋市長

他にいかがでしょうか。

私からもよろしいですか。

中学校給食開始からほぼ1年となりますが、2年目となる来年度の取組は、どのようなことを考えていますか。

学校教育課担当課長

まず御報告がございます。12月14日ですが、茅ヶ崎市で開催される第43回世界健康フォーラム2022において、本市の中学校給食の適塩給食の取組が紹介されることになりました。

来年度の取組につきましては、引き続き、地産地消や食育の推進を図るとともに、地域経済の活性化に向けて関係機関との意見交換を踏まえ、献立や食材の調達方法等について更なる工夫改善を図っていきたいと考えています。

また、環境に配慮した小中学校の給食残渣の処分方法についての検討にも着手してまいりたいと思います。

高橋市長

中学校給食に関して、アンケート調査では、約7割が肯定的な意見と伺っており、概ね順調であると感じています。今後も、子どもたちのアンケートの結果をしっかりと分析して、着実な取組としてもらいたいと思います。引き続き、よろしく申し上げます。他にいかがでしょうか

飯田委員

ほりかわ幼稚園のこども園化の件でお伺いします。
当初の計画を見直し、令和6年度は堀川小学校の教室を活用して幼稚園を続けるということでしたが、そのための改修費などは、どれくらいになるのか、教えていただきたいと思います。

教育総務課長

こども園化の件については、教育委員会会議でも報告させていただいているが、幼稚園、学校の先生方をはじめとする様々な方の意見を伺う中で、図工室を保育室とする方向で調整を進めています。

改修の主なものとしては、図工室を2教室に分けるためのパーテーションや空調の設置、また、図工室から校庭に出る際の周辺が、段差が多くなっておりますので、そのあたりの整備などが主な内容となっております。

改修等に係る全体の費用は、現在、積算中ですが、令和7年度に小学校に戻った際に、小学校の環境改善につながるよう、無駄のない形での改修となるよう心掛けて検討しております。

飯田委員

出来るだけ無駄のないよう、また、小学校にとっても良い形となるよう進めてもらいたいと思います。

高橋市長

他にいかがでしょうか。

片山委員

次世代を見据えた教育基盤の整備ということで、学校ネットワークシステムの更新が予定されていますが、現在のシステムが導入された時と現在では、GIGAスクール構想による無線ネットワーク及び学習用端末の整備やデジタル教材の普及、また、新型コロナウイルスへの対応としてのオンライン学習の必要性の高まりなど、学校を取り巻く環境は大きく変化していますが、現在の学校におけるデジタル環境について、近隣市の傾向と言いますか、最近のトレンドのようなものはありますか。

学校教育課長

GIGAスクール構想が始まって以降の校務支援システムの更

新としては、近隣市では、秦野が最初の更新となっています。そのため、参考にする事例もない状況ですが、どこまでやるかという点が非常に難しいと考えています。

しかし、現在、学校には、更新の検討を進めている校務支援システムに関するネットワークシステムのほか、GIGAスクール構想で整備した学習用ネットワーク、市のイントラネットによるネットワークの3つのネットワークが別々に存在しており、これらのデータベースは、相互に連携が図れていない状況となっているため、次期学校ネットワークシステムについては、少なくとも、この3つのうち、校務支援に関するネットワークと学習用ネットワークの連携を図りたいと考えています。

片山委員

どこまでやるかという難しい問題はあるが、次々と新しいものが入り入れられていく中で、現在のような複数のネットワークの連携が図れていないという状況が生まれてしまったと思いますが、次も同じようなことにならないよう、慎重に進めていただきたいと思います。

高橋市長

御指摘のとおりだと思いますので、慎重に進めてもらうようお願いします。

他にいかがでしょうか。

小泉委員

来年9月に、震生湖誕生100周年を迎えるわけですが、市民が防災減災に対する意識を高めるためのよい機会になると思います。以前、震生湖を知らない子どもがいるという話がありましたが、今回の企画は、大人だけではなく、子どもを対象とした普及啓発事業は、検討されていますか。

生涯学習課長

これから先の100年後も、多くの市民に震生湖を知って愛着を持ってほしいと思っております。その、きっかけづくりとして、子どもや親子を対象とした防災減災の意識高揚を目的として、講師には、テレビ等でもおなじみの防災士を候補として、講座の開催を考えております。

小泉委員

いつも市民の皆さんが楽しめるよい企画をされているので、期待しております。子どもたち、若い世代が、わが町秦野に関心を持ってもらい、故郷秦野の良さを先の100年後にも伝えていけるよう是非、頑張ってください。

牛田委員

私も図書館の件でいいですか。

高橋市長

どうぞ。

牛田委員

図書館ができてから37年が経過しており、来年度はエレベーターの更新工事を実施したいということですが、それ以外の設備でも、学校も同様だと思うので、特に普段あまり目につかないような箇所なども老朽化は進んでいると思うので、財政的に厳しいとは思いますが、利用者が安心して利用できるような環境整備に取り組んでほしいと思います。要望です。

高橋市長

学校施設の建て替え、あるいは、再編については大きな課題で、現在、検討を進めているところではありますが、その件については、後日、機会があればこの会議でも取り上げたいと思います。

他にいかがでしょうか。

特になければ、次の報告に移りたいと思いますが、いかがでしょうか。

各委員

—異議なし—

高橋市長

【報告事項1】

それでは、次の報告事項に移りたいと思います。

全部で2点ございますが、はじめに「本町四ツ角周辺の国登録文化財への登録の進捗状況について」、執行部からの報告をお願いします。

生涯学習課長

令和2年度と令和3年度で行った本町四ツ角周辺の近代建造物調査で普川家住宅、林家住宅、澤良商店、立花屋茶舗、保全堂薬局の5件の調査が終了しています。

国登録文化財に向けての意見具申を行うには、文化庁技官の視察が必要です。これについては新型コロナウイルス感染症拡大の影響で進みが遅かったものの、今年度に入って動きがあり、6月15日、10月26日の2日間にかけて視察が行われました。今後は、県の文化遺産課と調整を図りながら意見具申書を提出していくこととなります。

文化財の周知イベントとしては、11月に既に国登録有形文化財となっている五十嵐商店の倉庫を会場とした写真展を開催し、会期中の11月26日に東海大学建築都市学部建築学科教授の小沢朝江氏を講師とした四ツ角周辺の建造物を巡るミュージアム青空レクチャー「四ツ角の歴史的建造物」を実施します。

こうした取組を通して、所有者の方々にも国登録への関心、御理解をいただければと考えています。

高橋市長

説明が終わりました。

何か、御意見、御質問は、ございますか。

小泉委員

実際に国登録文化財の当否がわかるのはいつ頃でしょうか。

生涯学習課長

これまでの例ですと意見具申から国の審議会の答申が出るまで半年ほどかかっておりますので、令和5年度中に結果が出るのではないかと考えています。

高橋市長

その他、いかがですか。

佐藤教育長

11月15日申し込み開始で、先着10名ということで、非常に狭い枠ですが、枠はもう埋まっている状況ですか。

生涯学習課長

実は、11月15日号の広報はだのに掲出して、その日のうち

に定員に達し、キャンセル待ちも出ている状況です。

高橋市長

10名の定員の設定が、少ない気もしますが。

生涯学習課長

今年の3月も30名で、本町四ッ角で建造物のミュージアムを実施しました。このときは、ふるさと大使の吉田栄作さんをお呼びして行い、枠を増やして行いましたが、道が狭いこともありまして、今回の開催にあたり、現地確認及び講師の先生と相談する中で、10名としました。すぐに枠が埋まってしまうという状況もありますので、今後検討していきたいと思います。

高橋市長

その時、私も参加させてもらいましたが、小沢先生と福田さんが講師となって、2グループに分けて行ったと記憶しています。検討してみてください。

飯田委員

是非この機会に、秦野の小学生、中学生に本町四ッ角を知る機会としていただきたいと思います。

高橋市長

私からも一つ、曾屋水道の復元は、できないものでしょうか。かつて使われたものが埋まっていると思うのですが、その一部でも復元することで、曾屋水道でこういう風に使われていたという実物が見られるようなものがあるといいと思っていたのですが、いかがですか。

生涯学習課長

文化財の職員にも確認してみたいと思います。

小泉委員

国登録についてですが、登録されることによるメリットデメリットがあると思いますが、「所有者の方々に国登録への関心、御理解をいただければと思います」という文面があります。私自身も登録されることはよいと思いますが、管理などが大変になると伺ったことがあります。是非、次世代まで受け継がれるよう、市としても末永くバックアップしていただければと思います。

生涯学習課長

確かにそうしたお声を伺うこともあります。国には、修理等の補助事業があります。大切な歴史的な遺産ですので、所有者の方の声を聞きつつ、情報共有しながら、地域の歴史的遺産の保存に努めてまいりたいと思います。

高橋市長

その他、いかがですか。
ないようでしたら、次に移りたいと思います。

高橋市長

【報告事項2】

報告事項2 前田夕暮生誕140周年について、説明をお願いします。

図書館長

前田夕暮は、明治16（1883）年に現在の南矢名に生まれ、来年の7月で生誕140年を迎えます。

前田夕暮は、明治大正期に活躍した歌人で、斎藤茂吉や北原白秋、若山牧水等とともに活動し、自然主義の代表歌人として注目され、「夕暮牧水時代」や「白秋夕暮時代」などと称される一時代を文学史上に画し、その創作活動は精力的で、生涯で約3万5千首の歌を作り、ふるさと秦野に想いをはせて詠んだ歌も数多く残されています。

これまでも夕暮の生誕の100年や110年といった節目の年には、夕暮関連の史料の特別展示や記念の講演会、歌碑の設置などを行い、夕暮の功績を広く周知するとともに市民に親しみを持ってもらえるような事業を行ってきています。

来年の生誕140年に向けましては、昨年3月に策定した図書館基本計画後期計画に掲げた5つの柱の1つである「郷土文化の普及継承」に基づきながら、子どもから大人まで幅広い世代に、前田夕暮の功績を伝えられるよう、市内在住の前田夕暮研究の学識者や短歌大会の選者、図書館協議会の委員などから御意見をいただき取組を検討しているところです。

なお、記念事業につきましては、生誕月である7月を中心に、子どもたちの夏休み期間や春と秋の読書週間などを活用し、前田夕暮の認知効果を高められるような事業が実施できるよう、庁内や外部団体等とも調整を図り、検討していきたいと考えています。

高橋市長

説明が終わりました。

何か、御意見、御質問は、ございますか。

牛田委員

前田夕暮の子孫がいらっしゃれば、夕暮の人となりや生い立ちなどを披露することができたら、親しみを感じて、認知効果も高まると思いますので、検討いただけるようなら検討をお願いします。

図書館長

毎年、市内の小中学生を対象とした前田夕暮の短歌大会を開催し、今年で36回を迎えており、約2,000首の応募をいただきました。一方で、前田夕暮を知っている子はどのくらいいるの

か、というところもありますので、来年節目の年を迎えますので、知っていただくために、南が丘小学校で行った出前講座のようなものも検討していきたいと思います。

高橋市長

その他、いかがですか。

無いようでしたら、本日の会議を終了したいと思います、よろしいでしょうか。

—異議なし—

高橋市長

本日は、長時間にわたり、貴重な御意見をいただきありがとうございました。

少子化が進む一方で、なかなか収束が見えないコロナの状況ではありますが、教育のICT化、働き方改革を進めなければならないという、教育環境が大きく変化している変革期にある今、次代を担う健全で確かな学力を持つ子どもたちを育てることに力を注ぐことは、我々の使命だと感じています。財政状況が厳しいところでもあります、今こそ、教育のために米百俵の精神を発揮するときであると感じています。引き続き、より一層、皆様方の御理解、御協力をお願いしたいと思います。

本日は、長時間にわたり、誠にありがとうございました。

教育部長

皆様お疲れ様でした。

以上を持ちまして、本年度、第2回の総合教育会議を終了いたします。

本日は、ありがとうございました。